

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホームつどい 花園町

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390600336		
法人名	有限会社 つどい		
事業所名	グループホームつどい 花園町		
所在地	〒0240035 北上市花園町2丁目2-25		
自己評価作成日	令和3年10月28日	評価結果市町村受理日	令和4年2月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの要望に応えられるよう心掛けている。また、ご自宅で暮らしていた個々の生活に合わせるよう支援している。
手作りの食事を提供し、家庭と同様な温かい雰囲気のできるよう心掛けている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、百貨店やホテル、銀行、飲食店等の商店街、小学校や神社・公園に近接する北上市内の中心部に位置している。医療機関も点在し、生活上の社会資源が豊富にある地域である。コロナ禍以前は、花見や紅葉の時期の外、火防祭、花魁道中の見学等を行ない、また、町内会にも加入し、地域の文化祭に出展するなど地域との交流に努めていた。重度化看取りの指針を策定し、管理者及びケアマネジャーを中心に、医師との連絡、相談を密にしながら進めている。食事は、栄養士の助言の下、調理員が献立作成、調理を行っており、利用者は干し柿の皮むき、茶碗拭きなどの後片付けを手伝っている。ひつみの会、年始のお節、七草粥など、季節に応じた食事を楽しめるよう工夫を凝らしている。全館床暖房で、ホールや浴室等の共有空間や居室は快適な生活環境が整備されている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年12月7日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつどい 花園町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げ、実践に繋げるよう職員一同心掛けている。	3年前に事業所の理念を職員間の話し合いで作成し、利用者・職員に見えるように壁に掲示している。理念を意識し、職員が心に余裕を持って優しい声掛けができるよう努めている。職員会議は正規、パート問わず参加しており、理念を共有し、散歩や体操等、利用者個々の介護計画へ反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの関係で特に活動なし。	町内会に加入しており、コロナ禍以前は、地域で開催される文化祭へ利用者の作品を展示したり花魁道中、火防祭の見学をしていたことから、コロナ禍の収束後には子供会を含め、地域との交流を続けていきたいと考えている。市広報紙を利用者も閲読している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流が開設当時から少なく、近所の方々からは認知症への理解は得られていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの関係で施設での開催はできていない。運営推進会議開催月に運営推進委員へ活動内容等書面で送付し、意見を仰いでいる。	運営推進会議は、2か月に1回書面開催としている。法人内の他のグループホームと共通の委員で、利用者(当日当番)、家族、市担当課、訪問看護ステーション職員、地元2地区の代表者で構成されている。委員から「行事内容を会議資料に具体的に記載して欲しい」との意見があり改善している。委員からの意見は、電話やFAXでいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員へも参加してもらい、2か月に一度の運営推進会議録を送付し、意見をいただいている。	運営推進会議委員として、市長寿介護課と地域包括支援センターが交互に参加し、情報等を得ている。市担当課には、待機者や看取りの対応の関係で積極的に赴いている。要介護認定申請の際には、介護支援専門員が市窓口に出向き、指導を得ている。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホームつどい 花園町

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スピーチロックに関しては目標を掲げ、日々ゼロを目指すよう心掛けている。勉強会も開き身体拘束ゼロを目指している。	「身体拘束防止適正化委員会」を設置・開催しており、スピーチロック等の研修を年2回開催し、職員の振り返りの機会としている。利用者の平均年齢は高いが全体的に介護度は低く、ベッドからの転落や転倒、散歩中のヒヤリハット事例が見られるが、玄関センサーなどを取り付け比較的行動の制約が少ない生活環境にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より、職員間で声掛けを行い、虐待防止に心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護が必要な入居者様は現在なし。研修はコロナウイルスの関係で参加できず。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、わかりやすく説明できるよう心掛けている。また、入居後も不明な点やご意見等には説明し、回答している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活で入居者様から、要望があればノートへ記入し、職員間で共有している。また、面会時に家族様からご意見があれば、職員間で相談し共有している。	利用者の意向は面会時や通院時に家族から聞き、その対応については、利用者と家族と一緒に説明している。家族アンケートで「コロナ禍の生活状態を知りたい」との要望があったことから、利用者個々の生活の様子を担当職員が手書きやLINEで家族に伝えている。「利用者専用の希望記載ノート」や「職員連絡ノート」も活用し、介護計画に意向を反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度職員会議を開き意見交換をしている。	毎月の職員会議を勉強会の場とし、開催日程の設定など職員全員に研修効果が伝わるよう配慮している。職員間や管理者と職員の関係性においても、相互に話しやすい環境を作れるよう意識している。エアマットの利用者使用例など、職員の提言には早期に対応するよう心掛けている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつどい 花園町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務体制の見直しをし、各自特性を生かし、勤務表作成を行っている。職員間での協力をし、モチベーションも維持できるよう心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれの経験に応じて、利用者に向けたケア方法を共有したり、指導したりしている。研修会への参加は新型コロナウイルスの影響であまり参加できていない。現在必要な事などは勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	個々での交流はあるが、施設訪問等を行っていない。社内では、他事業所と情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問や見学時には、親しみやすい態度・表情で接し、要望等を聴けるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前にお話を聴く機会を作り、不安等を傾聴できるように心掛けている。いつでも相談できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学、事前訪問・申込時に現在の状況・不安や困っていることを伺っている。また、施設対象でないような場合は、他施設情報を提供し、安心して頂けるよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人に合わせた支援している。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホームつどい 花園町

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	申込の際に今までの生活状況を伺っている。受診は家族様の協力のもと支援している。また、外出、外泊に関してはコロナウイルスの影響で実施できていないが、ご自宅のみの外出、外泊を実施しているご入居者様はいらっしゃる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの影響で面会・外出の規制はかけているため、直接お会いできるのは玄関先で少しの時間での面会になっている。しかし、リモート面会も毎週日曜日に行っており、家族様の希望で参加されている入居者様もいらっしゃる。	馴染みの人の把握などは、入居時のアセスメントで確認し、介護計画に反映している。外出時に生家や職場の周辺を回ったり、通院時には家族と外食したりしている。家族等が面会の際に、ホール内で他の利用者との会話を楽しんでいることもある。コロナ禍のため、日曜日の午後のリモート面会が定着している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配置をお話が合う方同士になるよう配慮している。楽しくお話ができるよう職員が入ることもある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了したご入居者様のご家族様がゴミ箱用の広告を寄付してくださっている。また、同入居者様の身内の方が床屋さんで入居当時から退所された現在も継続して、散髪をお願いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに意見を伺うよう心掛けている。困難な場合は、日々生活している中で把握できるよう心掛けている。	利用者は、余暇時間に行なう職員との会話を楽しみとし、新聞購読や読みたい作家の本の購入、カレンダーの注文等の要望につながっている。耳が聞こえにくい利用者もいるが、日々の生活を送る上では、全員意思表示が可能であり、職員が把握した情報は、職員連絡ノートに記載し共有している。利用者同士の幼少期や学生時代の会話から、利用者のこれまでの歩みの一端を知ることができるとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居された際に、ご自宅で使われていた寝具等があれば持参して頂いている。また、ご家族の写真等も自室へ飾っている方もいらっしゃる。契約時に生活歴等をお伺いしている。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホームつどい 花園町

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活で一人ひとりの言動等を観察し、把握できるよう努めている。また、気づいたことは職員間で共有できるようノートに記入している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新の際は、本人・家族の他に必要なのは主治医や訪問看護からも意見を聞いている。また、職員からは、会議にて意見を聞きケアプランを作成している。	介護計画の原案作成は介護支援専門員が担当し、必要に応じ医師等と協議している。新規は1ヵ月、その他は3ヵ月で見直しとしている。モニタリングは、毎月の職員会議で、介護計画更新時期の利用者を対象に行っている。更新時期に至らない利用者については、申し送りノートに記載している。家族には、介護計画がまとまった段階で説明し了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録、申し送り、利用者ノートへの記載で共有し、ケアプランに反映するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に沿えるよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事には積極的に参加できるように心掛けてはいるが、コロナウイルスの影響で参加できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	身体状況を把握し、受診の際はご家族様に現状をお話している。必要があれば、施設内のご様子を文章作成し、お渡しして頂くようお願いしている。状況に応じて訪問診療へ移行している。また、血圧表等もお渡ししている。	月2回の訪問診療4人、入居前のかかりつけ医継続(家族同行)が4人である。訪問診療の結果で変化があった場合には家族に文書で伝えている。皮膚科等個別に通院が必要な診療科の場合は、家族同行としている。歯科は訪問診療を利用している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつどい 花園町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時や不明・不安時は、随時訪問看護へ連絡や相談し、助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、病室訪問している。主治医や病院看護師から状況確認している。また、退院の際は事前に退院カンファレンスを開き留意点を相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の在り方について伺っている。入居から数年経っている方や、ご家族様が遠方にいらっしゃる方もいるため、再度、お伺いした。	重度化看取りの指針があり、指針に基づき入居時に、本人、家族に看取りの意向を確認している。長期入居者は改めて再度確認している。今年1名を含めこれまで3名の看取り経験がある。管理者及び介護支援専門員も看取りを経験しており、医師等との連絡、相談を密にしながら進めている。職員には、重度化対応の研修を行なっているほか、看取り後にはカンファレンス等で心のケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアル、事故対応マニュアルは作成しており、職員間で共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時マニュアルを作成している。消防訓練にて、地域の区長さんに入ってもらおう予定であったが、コロナウイルスの影響で行えず、施設のみで訓練を行っている。	運営法人の関連病院を避難場所としている。避難訓練は年2回行なっている。夜間想定訓練は未実施であり、今後の実施が必要と考えている。コロナ禍でできていないが、地区の区長の訓練参加を予定している。ハザードマップ上は、河川洪水地域との境付近に位置している。	夜間時の見守り対応等地域との関係性を踏まえたシミュレーションは必要であり、ミニ訓練実施など段階的にも進めていくことが大切であり、今後の検討を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に適した支援を行えるよう心掛けている。	入浴・排泄等は、基本的に同性介助としているが、洗髪は男性の介助を好む利用者もいる。声かけは名前で呼んでいる。利用者が是非を言いやすいように、排泄・入浴時の移動は、なぜ連れて行くのか、その行動の意味を丁寧な言葉で説明している。居室への入室に際しては、ドアをノックし、トイレの使用時や歯磨き時には必ずドアを閉めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話での表情や言葉の強弱等で読み取れるように心掛けている。行動する際に選択して頂くよう会話で工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の日時は指定しているが、個々の希望に沿って対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の協力で衣替えや衣類購入をして頂いている。入浴時の衣類準備もご自分で選んで頂くこともある。また、行事レクでお化粧も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年に何度か出前レクとして、地域の飲食店より食べたいものを出前を取り、食べている。他にも郷土料理を行事レクにて提供している。その際、皆さんで準備して頂いている。茶碗拭きも行っている。	献立は調理員が1週間分を作成し、管理栄養士が確認している。2人の調理員が交代で昼食、夕食を調理し、朝食は職員が調理している。利用者は、干し柿の皮むき(男性も実施)やもやしのひげ取り、茶碗拭きなどの後片付けを行なっている。出前レクとして、地域の飲食店から出前を取って楽しんでいる。雛祭りや七夕のゼリー、敬老会の茶碗蒸し、誕生日のケーキ、ひつつみの会、年越し蕎麦、年始のお節や七草粥など、季節に応じて食事を楽しめるよう工夫を凝らしている。納豆、温泉卵、カレー等、利用者の希望に沿った対応にも心掛けている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつどい 花園町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の体調等を観察し、食事の提供している。 平均水分摂取量を摂っていただけるよう、牛乳やジュースで飽きないよう工夫し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食時、口腔ケアを行っている。就寝の際は、義歯洗浄を行っている。必要に応じて、訪問歯科の協力も得ている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用者は数名いる。日中はオムツ使用者以外の入居者様へはトイレ誘導を行っている。排泄板を確認し、排泄リズムを掴めるよう心掛けている。	排泄チェック表を基に声掛けしトイレに誘導しており、体操の前にもトイレに誘導している。おむつ使用の利用者も日中はトイレでの排泄を支援している。一人一人の排泄機能に応じた排泄用品の使用を検討し、機能の維持及び向上に努めている。リハビリパンツが必要と思われるものの、改善に向けて布パンツを継続している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や乳製品の提供、バランスの良い食事を提供し、自力排便できるよう心掛けている。また、主治医より下剤を処方して頂き、排便コントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は曜日毎に分け時間も決めてしまっているが、仲の良い入居者様同士で入浴できるよう誘っている。又、予定日でなくてもシャワー浴や足浴などを希望があれば応じている。	1日置きの入浴を基本とし、日曜日でも希望に応じて対応している。仲の良い利用者同士と一緒に入浴している。浴室は床暖房(全館)で、赤色の取っ手や滑り止めマットを設置するなど、転倒、ヒートショック等の事故防止等の安全管理に配慮している。身体機能の状況に応じて入浴できるよう、特別浴槽も設置している。入浴時に全身の状態を確認してケース記録に記入し、訪問看護師との相談の資料にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況に合わせ、日中は体操・レクなどに参加し、できるだけ身体を動かして頂くよう声かけを行い、夜間しっかりと休まれるよう心掛けている。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホームつどい 花園町

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった場合は職員で共有・見直しをしている。また、訪問診療を受けられている入居者様は、医師より変更する旨をお話して頂いている。また、副作用がみられた場合は、主治医または訪問看護へ相談・報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味(裁縫・読書)やレク活動(トランプ・カルタ・塗り絵)や散歩を行っている。また、役割として、洗濯物干しや洗濯物たたみ、茶碗拭きを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響で外出は控えて頂いている。マスク着用で散歩や系列のデイサービスへ出向かれる方もいる。	コロナ禍にあり、以前より外出の機会が少ないものの、マスク着用で系列のデイサービスを訪問し利用者とは交流している。デイサービスのワゴン車を使用し、近隣の花見や紅葉狩りのドライブに出かけている。周辺部への散歩やベンチに腰掛けて外気浴を楽しむなど、工夫しながら外出支援を行なっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様から自分で所持金を管理したいという希望はなく、欲しいものがあればお話して下さる。施設でもご家族よりお金を預かっているため、購入の際はそこから支払いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話は時間帯によるが、希望があれば対応している。携帯電話の持ち込みも許可しているが、使用していないため、施設で預かっている。手紙に関してもいつでもかけるよう便箋と葉書は準備している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、ご入居者様と一緒に作成した作品を展示している。	全館床暖房で、ホールには、加湿器やエアコンが設置され、快適な環境となっている。木造で壁・床・ドア・テーブルが、白色、茶色の落ち着いた色彩をベースに統一されている。テーブルは、利用者同士が自由に懇談できる配置で、手作りのカルタやトランプなどを楽しんでいる。ホールから、ラジオ体操、365歩のマーチ、ズンドコ節などの賑やかな音が聞こえてくる。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホームつどい 花園町

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にはソファを設置している。 また、テレビ、カラオケ、本棚を設置しており、要望に応じて対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具を持参されているご入居者様もいらっしゃる。また、ご家族写真やご自分の昔の 写真を持参され飾っている方もいる。	居室の入り口には手作りの飾りや名前札を設置し、個々の利用者が迷わないよう、配慮されている。居室も床暖房で、ベッド、洗面台、トイレ、ダンス、エアコンが備え付けられ、トイレはカーテンで仕切っている。利用者は、家族写真や自ら購入したカレンダーを飾っている。衣装ケース等を持ちこみ使用している利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床には可能な限り物は置かず、安全に歩行できるよう工夫している。各居室には許可を得て、名前を掲示しご本人でもわかるようにしている。		